

# 大学生における抑うつ傾向と適応の検討

—ロールシャッハ法の感情カテゴリーに着目して—

20011FRM 村井 正哉

キーワード：抑うつ・適応・ロールシャッハ法

## 1. 問題と目的

大学生においては様々なストレスイベントを経験する機会が多く、発達的にも自己への内省が深まる時期である(及川・坂本, 2007)。人間関係や社会生活において白石(2005)は、抑うつ傾向を示す学生の多さを踏まえて、治療対象とはならないまでも、多少の困難を抱えながら学生生活を行っている者も少なくないと述べている。また、抑うつ症状の持続は社会的孤立や孤独感、対人関係上の問題を引き起こし、さらなる症状の悪化につながるとされている(松永ら, 2012)。

しかし、健常大学生において抑うつと適応に関してロールシャッハ法での特徴についての研究は少ない。本研究では質問紙調査によって調査対象者の抑うつ程度と大学生活への適応感を評価し、抑うつと適応がどのように関連しているかを明らかにする。質問紙調査において意識的な部分を測定し、ロールシャッハ法において無意識な側面を明らかにする。そして、感情カテゴリーにより抑うつ傾向が高い者がどのような感情の在り方を持っているのかを明らかにする。

## II. 研究1

### 1. 方法

調査対象者：大学生 166 名(男性 39 名, 女性 127 名, 平均年齢 19.5 歳,  $SD=1.34$ )であった。  
質問紙構成：①表紙：研究者の情報, 事前説明文, 注意事項, 同意文。②適応について：大学生生活の適応感尺度(松原・宮崎・三宅, 2006) 5 因子 30 項目。③抑うつ傾向について：日本語版 BDI-II (Beck Depression Inventory-II) (小嶋・永谷・徳留・古川, 2002) 21 項目。④フェイスシート：性別, 年齢。⑤ロールシャッハ法実施に関する依頼書。

実施方法：対面または web 調査で行った。

## 2. 結果

大学生生活の適応感尺度の下位尺度は「学業のつまづき」「大学への不本意感」「不規則な日常生活」「大学生活への充実感の乏しさ」「自分への自信のなさ」であった。これらの下位尺度の得点を合計して不適応得点とした。不適応得点の平均値は 91.23 ( $SD=12.22$ ) となった。この平均値以上を不適応群, 平均値未満を適応群として群分けを行った。日本語版 BDI-II について得点を合計し抑うつ得点とした。抑うつ得点の平均値は 15.14 ( $SD=10.63$ ) となった。小嶋・古川(2003)を参考に 0 から 13 点(健常)を非抑うつ群, 14 点以上(軽症以上)を抑うつ群とした。これより不適応得点と抑うつ得点の相関を算出した。その結果不適応得点と抑うつ得点には有意な比較的強い正の相関( $r=.55, p<.01$ )がみられた。また、適応に関する下位尺度についても「学業のつまづき」については有意な弱い正の相関( $r=.34, p<.01$ )が、「大学への不本意感」については有意な弱い正の相関( $r=.24, p<.01$ )が、「不規則な日常生活」に関しては有意な弱い正の相関( $r=.28, p<.01$ )が、「大学生活への充実感の乏しさ」に関しては有意な弱い正の相関( $r=.19, p<.05$ )が、「自分への自信のなさ」は有意な比較的強い正の相関( $r=.44, p<.01$ )となった。

## 3. 考察

不適応得点と抑うつ得点では有意な比較的強い正の相関がみられた。これより抑うつが高いほど大学生活への適応が低いことが明らかになった。これにより、治療対象とまではならないまでも大学生の中には抑うつ的な傾向が高く大学生活への適応が低い者もいるということが明らか

になった。

### III. 研究2

調査対象者:研究1にてロールシャッハ法実施に同意した人のうち8名(男性1名,女性7名)にロールシャッハ法を実施した。

実施方法:研究1に対しての説明を行い,同意した調査対象者にロールシャッハ法を施行した。その際には調査対象者の同意のうえでICレコーダーにて録音を行った。

#### 2. 結果

各事例の形式分析と不適応得点,抑うつ得点を表1に示した。

#### 3. 考察

##### (1) 抑うつと感情カテゴリー

Hostility に関しては事例Aと事例Bは他の事例と比べて低い値となっている。Anxiety に関しては事例Aに関しては非常に高い値であり,事例B,事例Cについても比較的高い値である。これよりAnxiety に関しては抑うつ群の方が比較的高い値を示している。これより,抑うつの高い者は他者や周りの環境に対して,不安を感じたり脅威的に感じる人が多いと考えられる。Dependency では事例A,事例Cともに低い値となっている。これより抑うつの高い者は他者に対して依存することが少ないと考えられる。Positive Feeling に関しては事例B,事例Cが比較的高い値となっている。これより,抑うつが高い者であっても内的には感覚的な喜びや娯楽の活動に対して喜びの感情を示すと考えられる。

##### (2) 適応と感情カテゴリー

Hostility に関しては不適応群において高く他者や周りの環境に対して敵意や攻撃性が高い者は適応が低く,対人関係においても上手くいかないことが考えられる。Anxiety に関しては,適応的である者は比較的不安が高いと考えられるが,適応的であっても不安が高い者もいるということが示された。Positive Feeling に関しては,不適応群が高い値となり,内的には感覚的な喜びや娯楽に関しては喜びの感情を感じると考えられる。

#### 4. 事例検討

事例検討として抑うつ・不適応群であり敵意や

不安といった感情と快的な感情が両方存在し,アンビバレントな状況である事例Cと,非抑うつ群であるのに敵意や不安の感情が高い事例Fを取り上げる。事例Cのロールシャッハ反応や感情カテゴリーより他者や環境に対して不安や緊張を感じる場面が多いが他者の存在を意識しながらも他者と安定した関係を持つようとする意識を持っている。また,無意識的にはポジティブな感情と抑うつや不安が併存していると考えられる。事例Fに関しては他者や環境をとっても脅威的に捉えており,自身の攻撃性を投射していると考えられる。

#### IV. 総合考察

大学生における大学生活への適応感と抑うつには関連があることが明らかとなり抑うつが高いほど大学生活への適応が低くなることが明らかとなった。抑うつが高い者に関しては感情カテゴリーより,周りの環境や他者に対して不安や緊張を感じやすいことが明らかとなった。また,抑うつの高い者は周りの環境や対人関係において感受性が高く,不安や緊張を感じやすい。そのような対人関係における敏感さに加えて抑うつの高い者が持つ否定的な自己観により,さらに抑うつになると考えられる。

表1 各事例の形式分析  
事例

	A	B	C	D	E	F	G	H
不適応得点	89	110	93	100	103	87	86	79
抑うつ得点	16	28	16	3	8	4	3	1
T.R	15	29	16	22	22	16	25	19
T/ach	16.8"	4.4"	15.0"	9.4"	10.2"	16.8"	8.6"	7.6"
T/ch	47.8"	5.6"	27.0"	12.4"	5.4"	47.8"	31.6"	11.0"
T/IR	32.3"	5.0"	21.0"	10.9"	7.8"	32.3"	20.1"	9.3"
Card Rej.	0	0	0	0	0	0	0	0
Tur.%	0.0%	31.0%	37.5%	0.0%	31.8%	0.0%	0.0%	0.0%
VIII IX X/R	33.3%	27.6%	25.0%	31.8%	22.7%	37.5%	32.0%	31.6%
F%	53.3%	55.2%	37.5%	81.8%	77.3%	56.2%	84.0%	31.6%
F+%	50.0%	56.2%	50.0%	50.0%	47.1%	33.3%	47.6%	62.5%
R+%	73.3%	55.2%	68.8%	45.5%	54.5%	37.5%	48.0%	84.2%
W:M	11:2	11:3	5:2	3:0	4:1	8:0	9:0	3:1
M:FM	2:0	3:2	4:5	0:1	3:1	0:6	0:0	2:1
M:ΣC	1:1	6:5	8:1	0:2	6:1	0:1	0:1	1:1
FC:CF+C	4:0	5:0	1:0	2:0	1:0	2:0	0:3	4:0
P	2	5	4	4	4	0	3	3
H%	33.3%	17.2%	31.3%	4.5%	22.7%	18.8%	4.0%	10.5%
A%	46.7%	41.4%	31.2%	77.2%	54.5%	56.3%	24.0%	26.3%
H+A:Hd+Ad	5:1	4:3	5:2	13:3	15:2	4:1	3:1	7:3
Content.R	6	12	8	7	6	11	9	9
<Affect>								
Hostility	0.0%	7.1%	25.0%	15.4%	12.5%	41.2%	12.5%	6.7%
Anxiety	80.0%	14.3%	16.7%	0.0%	37.5%	29.4%	6.3%	0.0%
Bodily	0.0%	0.0%	8.3%	7.7%	12.5%	5.9%	50.0%	6.7%
T.Unple.	80.0%	21.4%	50.0%	23.1%	62.5%	76.5%	68.8%	13.3%
Depend.	0.0%	14.3%	8.3%	30.8%	12.5%	11.8%	12.5%	6.7%
Positive.	20.0%	64.3%	41.7%	46.2%	25.0%	11.8%	18.8%	80.0%
Miscell.	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Neutral	66.7%	44.8%	31.2%	54.5%	63.6%	25.0%	44.0%	36.8%